
夢と現実の境界線

湯員

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢と現実の境界線

【Nコード】

N0089BA

【作者名】

湯員

【あらすじ】

目黒佐一…あだ名は誰がつけたのか駄目黒臭一

なんの取り柄もなくさらに変態のクラス中の笑われもの&嫌われもの&きもがられものの三冠王の高校生。

しかし彼は、普通の高校生ではなかった。

伝説の幕開け（前書き）

（＾q＾）「ぼきのなまえはさいちれす」

伝説の幕開け

これは現実では運動もできず、頭も悪い。顔も悪く、女関係にも縁は無し

更に友人も数える程しかおらず、いつからか親にも相手にされず、昔は後ろを可愛くちょこちょこついてきた妹からも見下されるようになってしまった高校生、目黒佐一（めぐろさいち）の物語

こんな冴えない主人公だと話がすぐに終わってしまうと思う…しかし！この目黒佐一、なんと他人と違ったある「特殊能力」を持っていた！

それは…

【ドリームコントロール！】

自らの意思で睡眠状態に陥った時の映像を調整、改変できる能力！すなわち…

「まあ夢の中で好き勝手できるだけっすけどねwwwうはww切ねえwww」

「最初はもう本当にやる事がなくて、エロゲも2chも飽きたし。なんかもう生きてる意味ねーなーとか思ってたら夢日記つての見たんすよ

自分の見た夢を日記につけてたら精神崩壊するとかなんとかのやつね

俺結構心は強いほうなんすよ。「お前は誰だ」とか「1人かくれんぼ」とかやってたし？まあ何より中学からずっとぼっちつてのがいい精神修行になったんですかね（笑）

まあとりあえず夢日記。やってみるかっとなって、ジャポニカの自由帳買って絵日記って感じでつけてたんすよ、夢をね（笑）

授業の時間も理解できないわけだからほとんど寝てるし調度いいから授業中寝て休み時間に日記つけてっての繰り返してたんすよ

あんときのリア充達の俺をみる目ときたら、今思い出しても鳥肌もんですよ（笑）

そりやそうですよ。自分が夢の中でセック。してるのを画ありで日記つけてるわけですから（笑）

んでそんな時クラスのDQNが（ry

…とまあそういうわけで、いつの間にか夢を自在に操れる力を手にいれたんすよwwwwww

これが目黒佐一さんが体験した、【ドリームコントロール】を手にいれることになったルーツらしい

「ちょww待てwwww大体ドリームコントロールってなにwwww
俺そんな厨二ネームつけてないwwwwwwww」

「…でさーその女めっちゃ着痩せしててさー脱いだらマジすげーのww」

「マジかしww」

「マジマジww写真撮ったからみるか？ww」

「見るしww…うおっやべーしwww」

「だべ？ww」

……おw」

この二人は倉本と鈴木。ストーリーには全く関係ないから名前は覚えなくてもいい

そして二人が話している場所はもちろん教室。ホームルームが始まるまでの数分をここ、3年A組で談笑に使っているようだ
てか倉本君その写真後で俺にも

二人はDQN…まあいわゆるプチヤンキーだが、教室の扉がガラガラッと開いて入ってきたある人物を見て口角を釣り上げているみたいだ

そしてその人物がカバンを置きに机に向かって行くところを、倉本君は両手を広げて通せんぼしてしまった

「おっはよう駄目黒臭一くん」

「今日はちゃんと体洗ってきたし？ww」

入ってきたのは目黒佐一君、通称「駄目黒臭一」だめぐろくさいち周りもその光景を見てくすくすと笑っているということは、このやりとりは初めてじゃないのだろう

さて、怖いDQN二人に囲まれちゃった絶体絶命の臭一君はこの場

をどうやって切り抜けるのかな？

…お？

「…ッフ」

おーっとお！？これはあー！？

「げっwwこいつまた漏らしやがったww」

「超スプラッシュしてんしww」

なんと臭一君！！失禁だあー！！！！

謎の余裕の笑みを浮かべているがそれはもはや苦し紛れにしか見えない！！

「ぎゃーww臭一また漏らしてるーww」

「超受けるんですけどwwてかくせえww」

周りのギャルもたまらず悲鳴を上げるこの異常事態！！しかしクラス中まるで日常茶飯事のように！！っーかマジくせえ！！

「おーい臭一wwお前それちゃんと拭いてリセッシュしとけよwwあと5分でHR始まるから巻きなw」

「お任せあれ…」

しかしクラスメイトが見ている中でたった二人に囲まれて二秒で小便を漏らしているというのにこの余裕はなんなんだあー！？まるで

自分が漏らしていることに気付いていないかのような表情だあー!!!

「やれやれだぜ…」

DQN美少女瑠璃

倉本『うわああもう許してくれ佐一さん！いや、佐一様あああ
！！』

鈴木『俺らが悪かったし！マジごめんなさいし！』

佐一『うひょひょwww今更謝つてもだめだめよwww喰らえ！イ
エローウォーターハザード！www』

倉本『そそそんなあ！うわ！もうイエローウォーターハザードだけ
は勘弁して下さいよお！』

鈴木『がばがばえええ！！！し！！』

佐一『イエローウォーターハザード！それ即ち！敵に尿を飲ませる
ことなりwww』

DQN女1『わー、目黒様って本当は強かったんだね！』

DQN女2『カッコいい！』

ビッチ『抱いて』

佐一『あーあもう終わっちゃったよwww私はあと二回www
ww変身を残しているというのにwww』

DQN女1『えー、後二回も残ってるのー！？』

DQN女2『カッコいい!』

ビッチ『抱いてくださいお願いします』

最初はおしっこを漏らしたように見えた佐一だったが、それは次の攻撃に繋げるための伏線でしか無かった

やはり最後に必ず正義は勝つのであった

佐一「……と。よしwww夢日記終了www」

どうやらここまでの一連のやりとりは全て佐一の夢の中の話だったようだ

しかし重要なのはどこからが夢の中の話かということである

倉本「おい駄目黒くーんwwwそろそろ窓の外に干してあるズボンが乾いたんじゃないかなーwww」

鈴木「臭っせえ風が教室に迷い込んで来るから早く回収しろしwww」

どうやら放尿をしてしまった場面までは紛れもない現実だったようだ

なので現在佐一は上半身学ラン下半身ジャージという流行先取り読者モデルも真っ青の奇抜ファッションで椅子に座っていたのだった

佐一「春風に

小一時間ほど

撫でられて

ようやく乾いた

我がズボンかな」

倉本「wwwwwwww」

そして軽い川柳を口ずさみ席を立ち窓際に干された自分のズボンを取りに向かう途中、佐一は何者かに足をかけられ転倒してしまった

DQN女2「あ、わりーわりー駄目黒君。ついっつかり足が当たっちゃったよ」

佐一「あwwwwいやその全然気にしてないんでwwwwドゥフフ
wwwwフオカヌポウwwww」

DQN女2「んははwおめえマジきめえんなw」

今まで全く女関係で浮いた話があつたはずもない童貞の佐一は足をかけられた怒りは皆無、女と接触できたことに興奮し過ぎてアドレナリンがものすごいことになっていた。

佐一（DQN女さんのむっちりしたこんがり小麦色美脚と俺の足が当たったいやというより向こうから当たてきたいや待てよ女って気になる相手にはボディタッチをするってなんかで聞いたことあるな
てことはつまり…）

佐一「なあDQN女…スケベしようや…」

DQN女2「ひっ…」

普段気が強いDQN女も目の前に股間をパンパンに張らせ血走った目で見つめてくる放尿男には気圧されたのか、柄にもなく女の子の声を上げてしまった

鈴木「お、おい駄目黒！てめえ瑠璃に何言つてやがんだし！」

するとそれまで笑いながらやり取りを見ていた鈴木が何故か間に割り込んできた

倉本はその鈴木の行動さえも予想通りと言わんばかりに笑みを浮かべながら傍観を続けている

佐一「DQNネームwwwwだが構わんwwwwスケベしようやああああwwww」

瑠璃「ひっ…いやあああ！来んな化け物おお！！！」

鈴木「てめっ…あんま調子のんなし！」

「ちょっと！！静かにしてよ！！！」

佐一・瑠璃・鈴木「！？」

「今は休み時間って言っても勉強してる人もたくさんいる…そんなに騒ぎたいんだったら外に行きなさいよ！」

するとどうだろう、先程まで混沌と化していた教室内はその鶴の一声により水を撃ったように静まり返ったではないか

どうでもいいやつ1「す…すげえ」

どうでもいいやつ2「ああ…あそこまで空気を読まない発言をできるのはあの人しかいねえ！」

倉本「やはりここでも立ちはだかるか…」

クラス委員長！…！」

シッ

眼鏡の奥には切れ長の瞳。

さらにその瞳は、悪を決して許さないと言うかのような輝きを放っている。

その華奢な体には似合わず柔道二段という実力も兼ね備えているので、佐一のクラスのDQN達も反論できない。

佐一のクラスの紅一点ポニーテール守護神ガール。

そう、委員長である。

倉本「委員長……その美貌に引かれて言い寄った男は数知れない。しかし、それら全てを一本背負いするかのように撃退している！」

「（なんか変な人になった…）」

倉本「かくいう俺も背負われちゃった1人なんだけど、な」

佐一「本当にDQNかコイツwwwwwwww」

倉本「ああ！？」

佐一「はひい…」じよろじよろ

委員長「だから静かにしてよ!!」

佐一・倉本・瑠璃「!？」

佐一はこの時考えていた。

委員長の言葉、行動には周囲を魅了させる何かがあると。

そしてそれは委員長自信自覚していた。

自分の前には女男など関係無い。皆同様に縮み上がることを。

委員長「ふう…

ん？」

しかし、ただ一人、委員長の思惑通りに動かない男がいた。

委員長「な、なななな!??」

委員長の美しい顔で叱られることによって、普通の人間ならばくみ上がるところだが、この男にとってはそれさえご褒美でしかなかった。

委員長「なんでおつきくなつてんのよ!!??」

佐一「安心しろ、じつとしていれば、危害は加えない」

そこには、足元に自らの尿を結界だと言わんばかりに張り巡らせた

佐一が、ジャージが破れんばかりにフルボツキをして仁王立ちでたたずんでいた。

瑠璃「うわぁ…最悪」

倉本「どうでもいいけど膀胱ゆるいな…」

佐一の周りは、最早蛇に睨まれた蛙状態で、誰ひとり固まって動かない。

佐一「ついに封印が解けてしまったのか…!？」

まるで羞恥で涙を流しているかのように、尚も小便を放出する己の下半身を見つめながら、佐一はそう言った。

鈴木「しょっちゅう解けてるし」

倉本「お前とりあえずそれおさめろよ」

倉本は黄昏た顔で言葉を紡いだ佐一の見つめる先にあるナニカを指差し、額に汗を浮かべそう言った。

佐一「それは俺じゃなくてコイツに言ってほしいもんだな。なあ、ナニカ」

佐一（裏声）「委員長ー、いいコいいコしてー」

佐一「おっと、ナニカの”おねだり”が始まったみたいだな。どうする委員長？こいつの”おねだり”は3回断ったら…」

委員長「シッ」

佐一「自分の命と愛する人の命、ガッ！！？」

佐一がそれ以上言うよりも速く、委員長の力強い一本背負いが佐一に極っていた。

委員長「なるほど…つまり、そのナニカをへし折ればいいってこと？」

その時の委員長の顔を見たものは、後に皆一様に口を揃えて同じことを言った。

あれはまさしく、「悪魔だった」と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0089ba/>

夢と現実の境界線

2012年1月13日20時51分発行